

TEL: 03-3704-5203 FAX: 03-3704-3342 体育・スポーツ・健康づくりの交流で地域を活性化する

# NITTAIDAI×自治体 フォーラム2015 Report

2015.12.4 Fri

〈 会場 〉 渋谷セルリアンタワー東急ホテル



# 学校法人日本体育大学とともに これからの「体育・スポーツ・健康づくり」を 語り合い、学び合う

日本全体の人口減少や少子高齢化、厳しい財政事情とともに、経済のグローバル化の進展や、 新興国の台頭など世界の経済の環境変化が著しい昨今、「地方再生・創生」は、国が掲げる重要課題です。 学校法人日本体育大学は、地方自治体と手を取り合い、体育・スポーツを通じた国民の健康寿命の延長を目指し、 日本を代表する体育大学として、広く社会に貢献していきます。



## 式次第

学校法人日本体育大学 理事長 松浪 健四郎 15:00 理事長挨拶

15:05 学長挨拶 日本体育大学 学長 谷釜 了正

15:10 セミナー 1 基調講演 岡山県美作市 市長 萩原 誠司 氏

2 事例発表① 長崎県島原市教育委員会 教育長 宮原 照彦 氏

3 事例発表② 大阪府泉佐野市教育委員会 教育長 中藤 辰洋 氏

4 講演 味の素株式会社 広告部

オリンピック・パラリンピックプロジェクトグループ専任部長 江崎 貴彦 氏

17:00 特別講演 自由民主党 総務会長 二階 俊博 氏

17:30 懇親会 乾杯: 学校法人日本体育大学 常務理事 今村 裕

中締: 柏日体高等学校 校長 鈴木 誠治

後援: 味の素株式会社

## 理事長挨拶

#### 学校法人日本体育大学 理事長 松浪 健四郎



私どもは、"子どもに夢を、そしてお年寄りに健康を"という目 的を掲げ、各都道府県の1自治体と随時協定を結ばせていただい ております。そして来年中には、47都道府県全てにおいて協定が 締結する運びです。

本日のフォーラムでは、日体大を今一度よくご理解賜るととも に、各自治体が今までどのような催しを行ってきたのかをご参考 に、自治体相互に親交を深めながら、様々な企画立案にお役立て いただけたらと思っております。

地方再生・創生が叫ばれる中、平均寿命世界一を誇る日本にお いて健康寿命を延ばすこと、これは私どもが行える大きな社会貢 献と考えています。協定を結ばせていただいた自治体に対して何 ができるのか真剣に考えニーズにお応えして参る所存です。今日 はお忙しい中、ご足労いただきお礼を申し上げるとともに理事長 としての歓迎とお礼の言葉、ご挨拶に代えさせていただきます。

## 学長挨拶

#### 日本体育大学 学長 谷釜 了正



2020年のオリンピックとパラリンピックに向けて、オリンピッ ク奨励促進運動を地方からも発信できるよう期待し、この自治体 サミットを企画しております。この運動は国民一人ひとりが観戦者 やボランティアとして参加するだけでは十分ではございません。自 ら体を動かす習慣を身につけ、健康寿命の延長を目指さなければ ならないと思います。12歳頃までにしっかり運動を経験した身体 は、高齢者になっても確かな健康寿命を保証してくれます。老若 男女、運動することの大切さを知り、楽しく身体を運動させるこ とが大切ではないかと思います。本学はこのことについて、長年 にわたりお手伝いさせていただいている大学です。

本学を軸にしながら、縦横に情報交換ができれば、体育・スポー ツ界において思いもよらない果実を手にすることができる、こん なことを願って、私からのご挨拶とさせていただきます。

#### 基調講演

#### 体育と体育政策 ~地方自治体はいかに、日本体育大学と付き合うべきか~

岡山県 美作市 市長 萩原 誠司 氏



体育・スポーツというのは、かつて学校教育、社会教育の一分野だと考えられてきましたが、今や、国家の一大戦略になっています。地方では、その魅力づくりや経済発展の柱として捉えられようとしています。そして、私どものような消滅可能性自治体が存続し続けるための起爆剤になりえるのではないかという位置づけ

を、スポーツは持ちはじめているのではないでしょうか。

美作市は平成17年の大合併により、修行者が歩いた山歩きの 村、宮本武蔵のふるさと、なでしこリーグ「岡山湯郷Bell」の町やア ウトドアレクレーションの町、少林寺拳法発祥の地、国際サーキッ トのある町、6つの町村が合併してできました。共通項はスポー ツ。それぞれの資産が地域の力になると思いましたが、必ずしもう まくいっていませんでした。そこで体育や健康の世界に最初に取 り組んだ体育系大学の日体大と協定を結びました。日体大は、地 方創生のソフトの集積だと思います。力のある指導者をたくさん 有し、よく練磨された学生諸君は子供たちに目標を与えます。特 にスポーツ振興は障害の有無を超えたものであると理解してい らっしゃる。地方社会としては、これがないとだめです。また、教 育以外のスポーツをすることで世の中を良くするビジネスに積極 的に取り組もうとしています。そして、これは今日の会議そのもの ですが、地方との協調を重視していらっしゃる、このような点から 互恵の関係を築きました。今後も日体大とともに様々な事業を、 将来、そして、国のために展開することを強く期待しています。

## 事例発表②

#### 大阪府泉佐野市の取り組みについて

大阪府 泉佐野市 教育委員会 教育長 中藤 辰洋 氏



泉佐野市は、大阪府の南部に位置する関西国際空港のゲートロの都市です。松浪理事長は泉佐野市のご出身で、市の初代特別顧問として幅広くご助言を賜っております。

日体大との連携協定は、平成27年2月12日に締結し、推進活動として、まず「集団行動」でお世話になりました。集団行動では

日本の第一人者である清原伸彦名誉教授の愛弟子である大海二 朗広報課長に市内の中学校が直接ご指導いただきました。その 時の指導教諭は、大海先生の情熱に触れ難しい演技にも挑戦し た結果、観覧者の大歓声に包まれ、熱い感動とともに生徒たちも 達成感溢れる貴重な体験になったと語っています。

次に全校生徒99人の小規模小学校を体力向上プログラム推進校に位置づけ、モデル的にスタートさせました。その一環として5・6年生全員が日体大で体験学習を行いました。ゲストハウスに宿泊させていただき、施設見学をはじめ田中理恵助教による体操教室、三宅良輔教授のバランスボール教室、AEDの実技講習会、ダブルダッチの演技披露と体験など4教室を企画していただき大変お世話になりました。

活動報告の3つめとして、本市の青年団協議会のチームが大阪 代表として全国青年フットサル大会に出場した際、日体大を訪問 し関東学生フットサルリーグ一部の大学ナンバーワンチームと交流試合をさせていただきました。

今後もいろいろな企画・プログラムでお世話になりたいと思います。

島原市 ジュニアスポーツ 振興事業における 日本体育大学訪問



























## 事例発表①

## 長崎県島原市の取り組みについて

長崎県 島原市 教育委員会 教育長 宮原 照彦 氏



島原市は、昨年、「日体大と体育・スポーツ振興に関する協定」について松浪理事長よりお話しをいただき、平成27年6月1日に協定を締結しました。それに伴い「島原市ジュニアスポーツ振興事業(小・中学生派遣事業)」の予算を計上、8月26~28日、市内の小・中学生25名を日体大での体験学習に派遣しました。

この事業は、トップレベルの指導者や選手から講義・実技指導を受けることにより、児童生徒の意識高揚を図り、さらなるスポーツの振興や競技力向上を図ることを目的としています。

研修初日、子どもたちは、体育学部長・具志堅先生の講義で夢を持つことや諦めないことの大切さに感銘を受け、それぞれに決意を新たにしました。2日目、味の素ナショナルトレーニングセンター見学では施設の規模に圧倒され、アスリート食も体験。その後大学に戻り、日体大の学生から直接指導を受けることができました。島原市は近くに大学がないため、大学生からの指導は子供たちにとって本当に貴重な経験になりました。派遣した児童・生徒が各クラブのリーダーであったために、今後のクラブの活性化はもとより、本市の有能な人材育成に寄与できたものと確信しています。

今回の締結を機に、さらなる本市の体育・スポーツ振興のため、 市民の健康づくりを目的とした市民健康対策の体操創作をお願いしようと考えています。次に少年期におけるスポーツ指導の指導者研修会開催、また、島原市スポーツ計画作成のためのご指導を、今後、大学にご相談していきたいと考えています。

## 講演

## 「何を食べるか」ではなく、「何のために食べるか」を考える

味の素株式会社 広告部 オリンピック・パラリンピックプロジェクトグループ 専任部長 江崎 貴彦 氏



味の素株式会社は、"Eat Well, Live Well"を企業スローガンに掲げています。これは、おいしく食べて毎日を豊かに生きよう!というコンセプトを表しています。そして、このスローガンに基づき様々なスポーツ支援活動を行っています。その1つが味の素トレーニングセンター、味の素フィールド西が丘、味の素スタ

ジアム、これら3施設のネーミングライツです。特に味の素トレーニングセンターでは、「勝ち飯」をコンセプトに食堂を展開しています。

「勝ち飯」とは、アスリートにとって勝つための食事のことですが、何を食べるのではなく、何のために食べるのか考えて食事をとろうというコンセプトに基づいています。

「勝ち飯」の中には、食事と補食があります。食事については、主食、主菜、副菜、汁物、乳製品、この5つをしっかり食べようとトレーニングセンターのアスリートも意識しています。そして自分のコンディションに合わせて、どの栄養素をしっかり摂れば良いのか食堂の栄養管理士さんに相談しながらアドバイスをいただく、これが「勝ち飯」の食事です。一方、補食は、食事だけでは栄養バランスが偏るため、食事で摂るとカロリーオーバーになる栄養素などを食事と合わせてタイミング良く補うという考え方です。

弊社では、トップアスリートのサポートを行っていますが、一般の方にも、何を食べるかではなく何のために食べるのか、しっかりわかっていただこうと、アピールしていく所存です。

4 NITTAIDAI × 自治体 フォーラム 2015 NITTAIDAI × 自治体 フォーラム 2015 5

## 特別講演

#### 地方創生、国土強靱化を両立し、強い日本をつくる

自由民主党 総務会長 二階 俊博 氏



国土強靱化と地方創生について、私の郷里である和歌山県のことを例に挙げながらお話ししたいと思います。

1854年(安政元年)の11月5日、安政南海地震が発生し、私の郷里である広村(現・広川町)を大津波が襲いました。しかし現代のように防災無線はないため、醤油屋の濱口梧陵(後に和歌山県議

会の初代議長)は、村人に危険を知らせようと自らの稲むらに火を放ち、高台へと誘導しました。そうとは知らない村人たちは、醤油屋さんの家が燃えているので助けようと山の上まで走り津波を逃れることができました。この話は「稲むらの火」として教科書にも載っています。濱口梧陵は、その後も私費を投じ堤防を作ったり、橋を再建するなど地域活性化に尽力しました。その功績を称えるとともに、津波防災が学べる記念館が広川町にあります。過日、インドネシアのジャカルタを訪問した際、10年前の大災害地域に行き慰霊を行うとともに、現地アチェの津波博物館と広川町の記念館を姉妹館にしてまいりました。

また私は、阪神淡路大震災の折も自民党を代表して現地入りしました。その後、災害対策をしっかりやろうと自民党の国土強靱 化調査会を立ち上げ、百回目の勉強会が終わったところです。その成果は本にまとめ、三本の法律を作りました。強靱化を車の両輪として進めて行くためには、地方創生、国土強靱化、これを両立して考えて行くことが重要だと考え、今後もこの課題に臨んで参ります。

#### フォーラム2015 参加自治体一覧 ~ 全国から28の自治体が参加 ~

網走市(北海道) 七尾市 (石川県) 紀の川市(和歌山県) 中標津町(北海道) 志賀町(石川県) 海士町 (島根県) 勝山市(福井県) 三種町(秋田県) 美作市(岡山県) 南魚沼市(新潟県) 愛知県 呉市 (広島県) 上越市(新潟県) 江南市(愛知県) 柳井市 (山口県) 神崎町 (千葉県) 守山市(滋賀県) 阿南市 (徳島県) 泉佐野市(大阪府) 小菅村 (山梨県) 中間市(福岡県) 厚木市(神奈川県) 大山崎町 (京都府) 島原市(長崎県) 駒ヶ根市(長野県) 北山村 (和歌山県) 氷見市 (富山県) みなべ町(和歌山県)

## 学校法人日本体育大学を軸としたネットワークを構築し、 地域を活性化することで、幅広く社会に貢献していきます

## 懇親会















6 NITTAIDAI × 自治体 フォーラム 2015 NITTAIDAI × 自治体 フォーラム 2015 7